

一隅を照らそう
2月号

325号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



ふゆこだち(冬木立)

人々の枝々を四方八方に拡げ
空にそびえる冬木立
黙つて見守つてきた大木たちよ
冬の寒さに耐えてこそ
夏に堂々と葉を茂らせ
緑陰を造つてくれるのだね

今月は、私が若い頃によく醫院に接し、大きな影響を受けたお
方の文章をご紹介します。

私は機会あるごとに家庭宗教を皆さんにおすすめしている。
この世に生まれて幸福を求める人はない。家庭宗教はその幸
福を生み出す最も大切な要素であるとともに、その気になりさえ
すれば誰でも簡単に見える宗教であり、その上、あらゆる宗教の
基本になるからです。

家庭宗教には教義はない。神や仏や祖先に対する感謝の心、あ
りがたいという気持ち、これを失わないよう、離さないようす
ることである。家庭宗教には何の規則もない。自ら行うことであ
る。行いは簡単である。

朝起きたら洗面をすると同時に、神さま、仏さま、ご先祖に
手を合わせて感謝の拝礼をする。神棚があればその前で柏手を打
つて拝礼すればよいし、仏壇があればお線香を上げて手を合わせ
ればよい。仏さまもござれば、ご先祖もござるから至極簡単であ
る。無ければ好きな方角を向いて手を合わせて拝めばよい。

△中略△ 家庭宗教は家長が管長さんで、奥さんが事務總
長である。老人がいらっしゃればその人は前管長さんであり、前
總長さんである。家庭は赤ん坊に至るまでが信徒である。

宗教は上に立つ人の導きでその効果が示される。管長さんや事
務總長さんの言動がそのまま信者の家族に反映するから、家庭宗
教の効果は専ら家長や奥さんの言葉や行いが左右される。大変で
はあるが慣れれば簡単である。日常茶飯事、すらすらと運べる筈
である。家庭宗教が行われている家庭からは非行少年や「落ちこ
ぼれ」は出ない。家庭宗教が行われている家庭は必ず夫婦円満で
ある。

夫婦和合した家庭は「良い子」を育てる最上の烟である。異な
った立場から監察しながら相談して育てるからで、捨て置くこと
もしなければ過保護もしない。家庭の情況と子供の性質をにらみ
合わせての指導。そこに夫婦和合の尊さがある。 △後略△

山田恵諦著「いきいきと生きよ」より抜粋

経歴・比叡山第二百五十三世天台座主。明治二十八年兵庫県に生れる。十
歳で得度、十六歳で比叡山に登る。昭和四十九年座主に就任。昭和

六十二年比叡山宗教サミットを主催。平成六年遷化。主著に『大愚
のすめ』『和して同ぜず』『一隅を照らす』など多数。

あとがき

非公開・追讃式(豆まき中止)

節分会

二月二日午後二時

- ・厄除け・息災護摩札
- ・自動車交通安全お守り
- ・火防・盗難除払

・感染症対策として本年は僧侶のみで厳修
・お札お守り等は郵送にて

令和3年 厄年表 (数え年)

男	女
25歳 平成9年生まれ	19歳 平成15年生まれ
41歳(前厄) 昭和56年生まれ	32歳(前厄) 平成2年生まれ
42歳(本厄) 昭和55年生まれ	33歳(本厄) 平成元年生まれ
43歳(後厄) 昭和54年生まれ	34歳(後厄) 昭和63年生まれ
61歳 昭和36年生まれ	61歳 昭和36年生まれ

○横綱が不在の初場所は前頭筆頭の「大栄翔」が見事な押し相撲
で初優勝。いかなる場面でも不思議と場所を盛り上げる力士は出
てくるもの。次の場所は「照ノ富士」が楽しみデス。

○節分が過ぎれば立春。日脚が伸び、枯れ草に新芽が萌え始める
待ち遠しい気分です。

いかがでしょうか。このようにお座主は相手の立場により添い
仮教を解り易く、易しい人間学として私たちに語りかけて下さい
ました。そのお話をされる雰囲気と共にとても印象深い思い出です。
「家庭」という最小の共同体。縁を言えばこれ以上の縁はありません。その縁の方を考えさせられます。コロナ禍で人と
会う機会も減り、家で過ごす時間の充足が求められるようになつ
て、時間の使い方が取り沙汰されています。コロナ禍で人と
懺悔・発心・精進といった内省の行為は、年を重ねる程に味わ
いを深めていきたいと思います。

”老いたるはなお麗し”であります。

行 事 案 内

◎毎月八日 午後二時
薬師如来祈祷会 観音經讀誦

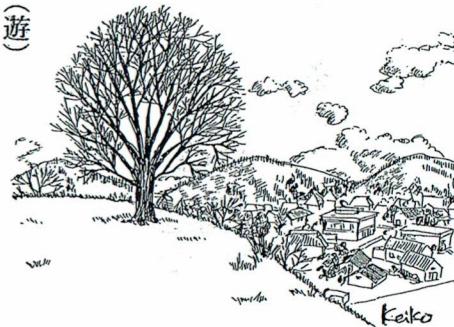
◎毎月十二日 午後二時
智泉院法要日 (於・日本橋茅場町)

◎毎月二十八日 午後二時
観音經讀誦法要 (於・神木觀音堂)

◎毎月二十九日 午後二時
不動明王護摩供修行

*マスク着用の上、静かにご参詣下さい
*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしてあります
ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

※今月の坐禅会は中止



折り返しのはな